

中国における医療AIの動向 (1/2)

中国人の多くが利用している「WeChat」を開発・運営するテンセントは「CloudMedx」という子会社を設立し、医療AI分野に進出した。この会社は、患者データを基に機械学習を通じて臨床治療と初期の診断を提供するAIの開発を行っている。また、テンセントの別の子会社「iCarbonX」は、健常人の健康情報のビッグデータ、インターネット、人工知能を駆使し、デジタル・ライフ・エコシステムの研究を行っている。このように中国ではテンセントをはじめ、アリババや百度などが医療AIの研究を推し進めており、AIを応用する素地が整ってきている。

a.中国の大企業とスタートアップの動向

中国においても、医療の商業化は他の分野よりも慎重に進められている。百度・アリババ・テンセントに加えて、科大訊飛 (IflyeTech)などのテクノロジー企業が医療AIでも主力の企業である。 GoogleやMicrosoftと異なる点は、テンセントや科大訊飛は、病院と共同で「スマート病院」を構築する研究ができている点である。これにより自社商品の研究応用を加速させている。

一方で、アリババはスタートアップ企業向けに技術プラットフォームを提供している。医療提供そのものよりも、医療スタートアップ企業をサポートする立場を選択したわけである。アリババ以外の医療AIを利用するスタートアップ企業の多くは、単独の診療科、疾患に焦点を当てて医療AI商品を開発している。例えば、スタートアップ企業が行った有名な研究・開発の1つとしては、皮膚がん（メラノーマ）の診断をスマートフォンのカメラ画像から実施するものなどがある。

中国における医療AIの動向 (2/2)

b.中国における医療AIの研究事例と応用事例

大企業による医療AIの研究事例は、下記の表のようなものが挙げられる。

図表・20 AI医療の研究・応用事例

企業	製品	機能	事業進捗
科大訊飛	<ul style="list-style-type: none"> 音声電子カルテ 画像診断補助 智医アシスタント 	音声によるカルテ入力 診断の補助	安徽、北京、上海、 広州、山西、武漢、 吉林などにある 20 か所余りの病 院で応用されて いる
アリババ	・クラウドET 医療大脳	医療の品質管理 精密な運営分析 人工知能の接続 リソースの配置	非公表
テンセント	・覓影	病気のスクリーニング カルテの構造化・診断 リスクモニタリング	提携する医療機 関は約 90 に達 し、四川、広西、
		臨床診断のサポート	河北、陝西、浙江、 上海、重慶、甘肅 などの地域 に分 布している。

出所) 鳳凰財經網 2018.02.09